



カトリック

三軒茶屋教会

おとずれ

2015年8月15日発行 第60巻 第6号



聖母の被昇天号

ミサの式次第変更（1）

主任司祭ミカエル 湯澤 民夫神父

今年の6月に、『新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所』というパンフレットが出されました。この変更は、今年の待降節の第一主日から実施されることとなります。一度に変更するのは難しいので、『おとずれ』を通して、少しずつ説明していこうと思います。なお、ミサの準備や侍者などの奉仕者、また、入堂については、いつか時間をとって侍者や奉仕者の皆さんと練習をしていかなければならないと思いますが、この『おとずれ』では、信徒全体と関係しているところを説明しようと思います。

基本的に、ミサに参加する司祭（司式者）を含めて、すべての参加者の動作や姿勢は、すべての人の行動的参加を促すものとなるように考慮しなければなりません。つまり、参加者が共通の姿勢を守ることによって、その一致がしるしとして現れる、というのがその理由です。ですから、個人的なこの身や自由裁量によって変えることは、望ましくないと考えられるようになります。従って、日本では、ミサ中は、「立つこと」と「座ること」が基本的な姿勢になります。「跪く」という姿勢は、採らなくなります。

それから、前からそうですが、「沈黙」は、典礼の中で、重要な要素になります。おそらく、長さには色々あるでしょうが、沈黙を大切にしようになるでしょう。

ミサが始まる時、これまでと大きく違うことは、内陣にある聖櫃への表敬と祭壇に対する表敬の強調です。聖櫃が内陣にある場合、祭壇への表敬の前に、聖櫃の前で立ったまま手を合わせて深く礼をします。この主語は、「司祭と助祭、および他の奉仕者」ですが、三軒茶屋教会の場合、具体的にどうするかは、司祭団の共通理解を得た上で、検討しようと思っています。

次に、祭壇への表敬があります。「内陣に着くと、司祭と助祭と奉仕者は手を合わせて深く礼をして祭壇に表敬する。それから、表敬のしるしとして、再々と助祭は祭壇に近づき、両手で祭壇に触れ、深く礼をする」。

三軒茶屋教会の聖堂と瀬田教会の聖堂、また、他の修道院（女子修道院）の聖堂と、内陣の範囲、聖櫃の位置などが異なりますから、具体的にどのように表敬するか、検討しなければなりません。これについては、司祭団の方で共通の考えを持とうと思っています。

献香する場合は、この後になりますし、荘厳な入堂において、十字架やロウソクを持つ場合、それをどうするかについても、統一的な考えを共有しようと思っています。

今回は、入堂についてだけ見て見ました。次回は、ミサの最初の挨拶や回心の祈りから始まって、朗読について共通理解を持てればと思います。

蟻の街のマリア北原玲子さんについて

教皇フランシスコは6月22日、教皇庁列聖省長官アンジェロ・アマート枢機卿との会談で、聖人・福者などに関する文書を承認した。その中で、「蟻の町のマリア」と呼ばれた、神のしもべ・エリザベト・マリア北原怜子（さとこ）（1928～58）が「尊者」と認められたと、列聖省が翌23日に発表した。列聖省が、聖人の列に加えることを最終目的とする調査の開始を宣言すると、その人物は「神のしもべ」と呼ばれる。そして、さまざまな調査によってその人物の生涯が英雄的、福音的な生き方であったことが公認されると、次の段階として、「尊者」という敬称が付けられる。

戦後、東京・浅草の隅田川の言問橋（ことといばし）ほとりに、「蟻の会」という労働生活協同体が誕生した。ホームレスの人々がバタヤと呼ばれる廃品回収業を営み、結束して人間らしい生活を勝ち得るための会であった。蟻の会が経営する、集めてきた鉄くずなどを分別するための仕切場を中心とする一帯が「蟻の町」であり、そこで献身的な働きをしたのが、北原怜子だった。

東京・杉並区生まれの怜子は、品の良い住宅地にある「お花屋敷」と呼ばれる立派な邸宅で、大学教授の娘らしく数々の習い事をたしなみつつ育てられた。桜蔭女学校へ入学し、正真正銘のお嬢様として成長するが、戦争を経て、自身の将来を考えた怜子は、手に職を持つと薬学専門学校に進む。怜子がカトリック信者になるのは、20歳のときで、遊びに行った横浜の教会の雰囲気心惹かれたこと、妹の通うミッション・スクールでの聖書の学びがきっかけだったという。

洗礼を受けてから、怜子はずっと「何か世の中に貢献することをしたい」と願い続けていたが、そんな怜子の人生を決定的に変えたのは、ある一人の人物との出会い。白いひげを生やし、「ゼノ神父」と親しまれたポーランドの修道士、ゼノ・ゼブロフスキーだ。蟻の町で救援活動をしていたゼノ修道士に、クリスマス会の手伝いをしてほしいと頼まれたことから、怜子もその働きに身を投じていくことになる。

「バタヤの子」とさげすまれる蟻の町の子どもたちを預かり、おやつを与え、入浴させ、勉強を教える。子どもたちの夏休みの課題をするために、海や山に行く必要を感じたときには、自ら鉄くずを拾い集めてお金を稼いだ。「怜子先生、怜子先生」と慕う子どもたちを見て、クリスチャンなど偽善者だ、とかたくなだった周囲の大人たちの心も変わっていったという。

怜子の洗礼名は「エリザベット」、堅信名は「マリア」。当時から「蟻の町のマリア」という見出しが付けられて報道されるほどに、その働きは有名になっていた。しかし、怜子は結核にかかる。静養のために、空気のきれいな土地と東京を行ったり来たりする生活を余儀なくされる中で、子どもたちの世話を引き継ぐ後任者も見つかり、怜子は修道院に入ることにするが、それも許されないほどに体調が悪化してしまう。

怜子を慕う多くの人々の提案で、怜子は28歳という若さでこの世を去る最後の瞬間まで、蟻の町で生きることになった。用意された専用の部屋で、蟻の会の事務仕事をしつつ、もっぱら祈りに専念する生活を送った。

病の床にあっても、怜子は蟻の町のために働き、祈り続け、多くの人々の助けとなった。怜子が作成した「くずを生かす」というパンフレットは、廃品回収をする上での役に立つ資料として大いに用いられた。その著作『蟻の街の子どもたち』は、東京都の役人の心を動かし、蟻の町が直面した立ち退き問題という危機を乗り越えさせた。

怜子の蟻の町での働きに関しては、数々の逸話が残され、「奇跡だ」といわれるエピソードもある。しかし、何よりも人々の心に残っているのは、怜子のほほえみ、人々の疲れをとりのぞき喜びを与えるような、その笑顔だったという。怜子の働きを間近で見続けていた蟻の町の指導者・松居桃楼（1910～94）は、「一緒に暮らした8年の間、怒った顔を見たことがない」と語っている。

事実、お嬢様だった怜子の人柄に触れた、ホームレスやヤクザあがりの人々が、「ヤクザが兄弟分のために命を捨てるみたいに、キリストは人間に生命を投げ出した。だったら、俺もキリストの<杯>をもらおう。そうだ、そうしよう。キリストの杯、つまり洗礼だ！」と、数多く救いに導かれたことが、一番の奇跡と呼んでも過言ではないだろう。

怜子の列聖運動は、現在、ゼノ修道士の所属していたコンベンツアル聖フランシスコ修道会によって進められている。蟻の町は後に、当時の地名で枝川と呼ばれた埋立地に移転した。現在の江東区潮見に当たる。カトリック潮見教会の会堂には「蟻の町のマリア」という名前が付けられている。

(以上は Christian Today ニュースより引用)

◇ 平和を実現する人は幸い ◇

今年も8月6日(木)から平和旬間が始まります。



＋ みなさんの平和への願いを短冊にしてください ＋

＋ 平和を祈る 2015. 8.9

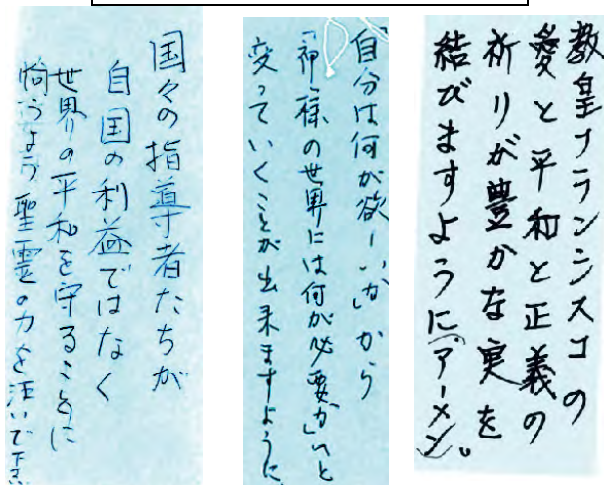
～～平和旬間 祈りのリレー～～

♪印は歌います。

《ろうそくを捧げ終わってから、全員で歌います》

- ♪ すべての人の平和を願い、すべての人の平和をいのる♪
- ♪ すべてのこどもの平和を願い、すべてのこどもの平和を祈る♪
- ♪ 悲しむ人の平和を願い、悲しむ人の平和をいのる♪
- ♪ 悲しむこどもの平和を願い、悲しむこどもの平和を祈る
- ♪ 苦しむ人の平和を願い、苦しむ人の平和をいのる♪
- ♪ 苦しむこどもの平和を願い、苦しむこどもの平和を祈る♪
- ♪ すべての人の平和を願い、すべての人の平和をいのる♪

平和の祈り短冊より



自分は何が欲しいかわからず
神様の世界には何が必要かわかへど
変っていくことが出来ますように

いじめや虐待で苦しんでいる
子どもたちの叫びに
まわりの人が気づき救いをさしあげる行動に
ふなせまますように……

移民・難民がたどり着いた国々で
歓迎され尊敬されますように。
①人ひとりが地球に迷惑をかける
生き方を反省出来ますように(祈ります)

みんなが
ずと幸せでありますように

武力によらない世界平和を
祈ります。
私にそのためには何を動具となれ
ますように。

国々の指導者たちが
自国の利益ではなく
世界の平和を守ることに
向うよう聖霊の力を注いで下さる

武力に頼らばいそ易く平和を
祈ります。

私にしろ、そのためにははたらく動具となれ
ますように。

国々の指導者たちが
自国の利益ではなく

世界の平和を守ることに
向うよう聖霊の力を注いで下さ

武力による平和ではなく
対話により、命が大切にさ
れる世界になりまますように

ゆるす心も自分も
世界中の一人一人が
できるお恵みをお与え
ください。

主のみこころのとおりにな
りますように。辛いことが
あっても主の愛からくることが
理解できますように

戦後七〇年間の平和を

プーと残けることが出来

ますように

こよみ

8 月

- 8月15日(土) 聖母の被昇天祝日ミサ午前10時30分
主日のミサ午後6時30分 午後7時15分からビヤパーティ
- 8月16日(日) 年間第20主日
- 8月19日(水) 聖ヨハネ・ユード司祭
- 8月20日(水) 聖ピオ10世教皇者
- 8月21日(金) 聖トマ使徒
- 8月22日(土) 天の元后聖マリア・サマーフェスタ(みょうじょ子ども会・
ボーイスカウト・みょうじょ幼稚園共催)
- 8月23日(日) 年間第21主日
- 8月24日(月) 聖バルトロマイ使徒
- 8月25日(火) 聖ルイ・聖ヨセフ・カラサンス司祭
- 8月27日(水) 聖モニカ
- 8月28日(金) 聖アウグスチヌス司教教会博士
- 8月29日(土) 洗礼者ヨハネの殉教
- 8月30日(日) 年間第22主日

9 月

- 9月3日(水) 聖グレゴリオ一世教皇教会博士
- 9月6日(日) 年間第23主日
- 9月8日(火) 聖マリアの誕生
- 9月9日(水) 聖ペトロ・クラベル司祭
- 9月10日(木) 日本205福音殉教者
- 9月13日(日) 年間第24主日
- 9月14日(月) 十字架の賞賛
- 9月15日(火) 悲しみの聖母
- 9月16日(水) 聖コルネッリオ教皇 聖チブリアーノ司教殉教者
- 9月17日(木) 聖ロベルト・ベラルミノ司教教会博士
- 9月19日(土) 聖ヤヌアリオ司教殉教者
- 9月20日(日) 年間第25主日
- 9月21日(月) 聖マタイ使徒福音記者
- 9月23日(水) 聖ピオ(ピエトレルチーナ)司祭
- 9月27日(日) 年間第26主日
- 9月29日(火) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使

10 月

- 10月4日(日) 年間第27主日 アシジの聖フランシスコ

あ と が き

- ◇ 聖母被昇天の祝日、おめでとうございます。
- ◇ 記録的な猛暑日が続き、全国的に熱中症で救急搬送される方が多く報道されています。教会員の皆様も、日頃の健康には充分ご留意ください。
- ◇ 今夏は、終戦から 70 年を経過した年であります。広島・長崎の被爆者の平均年齢が 80 歳を過ぎ、カトリック平和旬間も意義深い季節です。
- ◇ 今号の「おとずれ」巻頭言は、新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」が出され、今年の待降節第一主日から実施されることになりました。変更される典礼内容は、掲載の記事記されています。
- ◇ 平和旬間の祈りの木にある、皆様の短冊の一部を掲載しています。
- ◇ 次号は、2015 年 10 月 4 日発行「アシジの聖フランシスコ」です。皆様の積極的な、投稿をお願いいたします。



『おとずれ』第 60 卷 第 6 号 2015(平成 27)年 8 月 14 日発行
発 行 カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷 カトリック三軒茶屋教会・広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯 澤 民 夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋 2-51-32
TEL 3421-1605 FAX 3421-9788
<http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm>
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp